

近代長屋

主 幹 田 中 新

3月の中頃に社友の辻原登さんから電話があり、「生野区にある近代長屋を取材したいので、4月8日、つき合っ
て欲しい」とのことでした。そして、NHKBBSの「新日本風土記」に紹介されているDVDを送るので、それまで
に見ておいて欲しいとのことでした。

届いたDVDを早速見てみると、「大阪モダン旅する昭和」のタイトルで、大阪が大大阪といわれた時代（人口が日本一、世界6位）の頃の近代建築が次から次と紹介されていました。

三井住友銀行大阪本店をはじめ、大阪府庁舎、大阪経済人の紳士たちの館として、大阪俱樂部、日本綿業俱樂部、大阪中央電気俱樂部等々です。

大阪俱樂部には20を超える部活動があり、「川柳の会」もその一つで、小生が講師を担当しています。

綿業倶楽部の綿業会館は、毎年3月に織田作之助賞の贈呈式があり、小生も関係者の一人として出席しています。綿業会館は、現在の大阪城2つ分の資金を投じて建築され、戦時中周りが焼け野原になっても綿業会館だけ残りました。

戦後にはリットン調査団が使用したことがあります。

大阪中央電気倶楽部は、松下幸之助さんが創設されたもので、小生の同級生がメンバーにいたので同窓会やミニ同窓会で使わせてもらっています。

大大阪時代には近代建築が次から次と建てられていく一方で、好景気で膨れあがった人口を吸収するために長屋も次から次と建てられ、今もたくさんの長屋が残っています。近年は、昔の長屋の良い所を残しながらリノベーションされて近代長屋として蘇っているようです。

生野区林寺2丁目にある近代長屋は、昭和13年の木造建築（地上2階）で平成30年に修復され第34回大阪市ハウジングデザイン賞特別賞になっています。

辻原登さんを案内するために事前に場所を確認しに行きました。五軒長屋の左端のお家にコーヒード豆の小さな暖簾がぶらさがっていたのでお話が聞けると思ったのですが、日曜日はお休みで鍵がかかっていました。それでも呼鈴を押してみると、ご主人が出て来て下さったのです。

小説家の辻原登さんが近代長屋取材のために4月8日に

訪問したい旨、お願いしたところ、快く応じてもらえました。

4月8日、お昼にJR天王寺駅で待ち合わせて、辻原登さん、出版社の人、同級生で弁護士の岩城さん、同じく同級生の山下さんと小生の五人で、駅近くにあるお好み焼きの「きくや」さんへ行き、久しぶりの親交を楽しみました。「きくや」さんは、辻原登さんが小説に登場させたことがあり、この小説を読んだ川柳塔社の木本朱夏さんも行かれています。

その時のことを辻原登さんに手紙を書いたと小生に電話をくれたことがあります。

この日も「きくや」の女将さんが朱夏さんのことを話題にされたので驚きました。

食事後に、辻原登さんと小生の二人で生野区林寺2丁目の近代長屋へ向かいました。

コーヒード豆を売っているお店へ行くと「体調不良のためお休みします」の貼り紙があり鍵がかかっていました。あきらめて、しばらく長屋の前をウロウロしながら外観を眺めて、もう一度お店の前へ行くと、扉が開いて、ご主人が出て来られたのです。この間お約束した人ですねと言われ、店の中へ招き入れてもらい隈無く家の中を見せてもらうことができました。